

講演 (熊本地震の報告)

電波ノイズが命を救う！

- 突然襲われる

絶体絶命の巨大地震や大噴火から助かる方法は？

- ありません。

地震警報(地震計)や噴火警報も間に合いません。

- ただ一つ

JYAN研の **電磁**観測計は 1週間前に判りました。

JH6ARA & Study Society

HAMの地震予知と社会貢献！

- アマチュア無線家として最高の「安全特権」です！
- 「大切な命を守る！」= ハムとして最高の社会貢献！
- HAMのIoT技術を生かし、世界最高水準の地震NET観測網です！
- DXの微弱電波を、アースからの微弱ノイズの受信に応用！
- 高信頼な予測で、全国に地震観測網(43局)が広がっています！
- JYAN研観測網の魅力！（自宅に観測機を置けば **安心！**）

阪神淡路大震災

(早朝～2昼夜)

1995年1月17日約6千5百人



救助・救急隊も現場に寄り付けない

全国から緊急援助隊が行ったが現場に入れず、十分な活動はできなかった。◎神戸は、昔から地震の無い所と言われていました。

東日本大震災

2011.3.11 (約2万人)



海が燃えた!

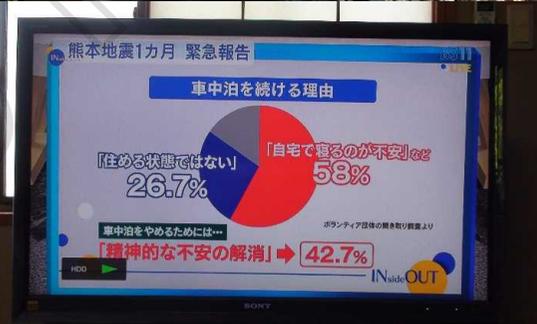
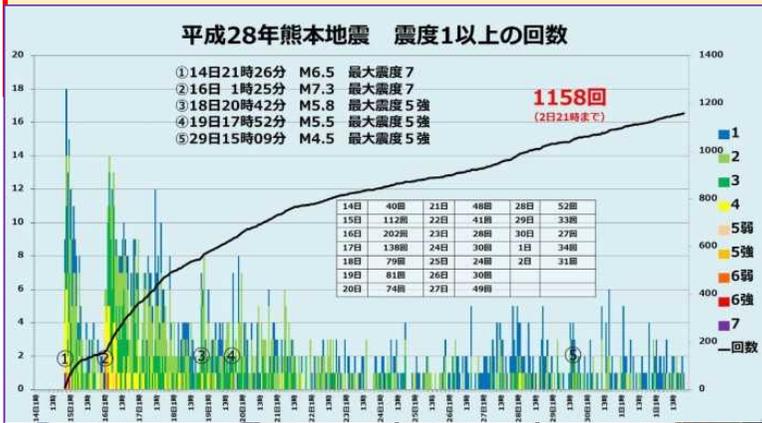


まさか
こんな
津波が
来ると
は!?

この災害は想定外では無く、地震学者・気象庁・行政・住民等の間違いだらけ?の結果だったと思います。
(◎問題は、「三陸も地震の来ない所」と言われ、最初の津波情報も間違っていました。)

熊本-大分連続大地震(2016-4/14~16~)

死者49人 避難者18万で長期



世の中で、戦争以外に、命を守る事ができないのは、突然！襲われる「巨大地震や巨大噴火」です。
しかし、この猛威から逃れることは困難です。

そこで「今、死んだら困る人」
「絶対に死なれない方」
「まだ頑張りたい」と言う方
生き残る方法があります。

JYAN研の地震予知と予報内容

- 電磁波観測で地震が予知できる。=天気予報のように予報が可能です。！！
- 電磁地震計の観測網が完成すると、危険度に応じて(予報)を出せます。
1ヶ月前予報、1週間前注意報、数日前に警報、特別警報等々
- 地震が起きる(いつ=時期)は地震予報センターから、
数月後の旬単位、数週後の何日頃、数日前には何日頃等
- (どこ=場所)の特定は地震観測・予報センターから、
1ヶ月前は地方単位、1週間前は県単位、数日前は県地方単位で発表します。
注 この予報技術は実験検証中です。
- ◎(大きさ)各地の予想震度を発表できます。また、正逆横断層も予報できます。
(何故？プロにできない事が出来るの？=21年の地震研究に、無線技術やIoT観測技術が大盛りです。)

アマチュア無線家が地震予知？

- どういう取り合わせ？

無線大好きのHAMは、電波やノイズに滅法強い。+ 消防救助隊

- 何でそうなったの？

地震予知＝地震観測は、ノイズや電波観測が「ベスト」だった。

- プロのK庁はどうなの？

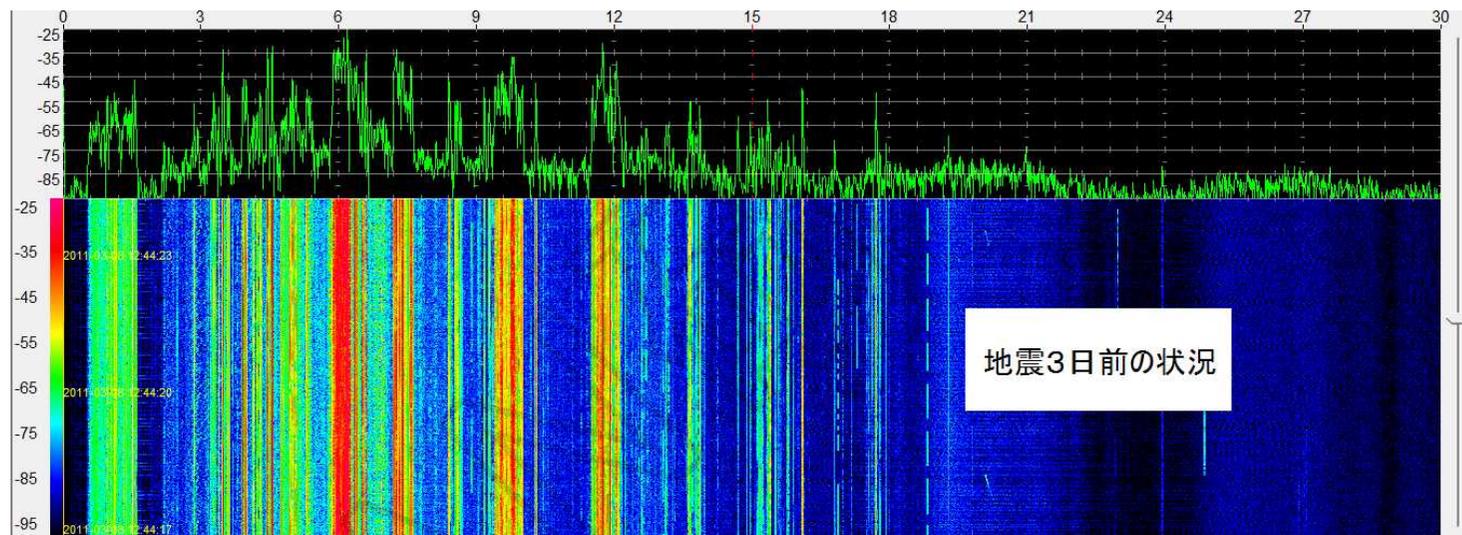
揺れの地震計に固執～直下型地震で地震警報は間に合わない！)

- 地震予知って無理なんですか？

電磁気観測なら数日前に地震警報を出せます。JYAN研が証明中！

- 地震予知は電磁気観測が最先端技術、HAMが予報に挑戦中！

東日本 大震災 (短波帯)

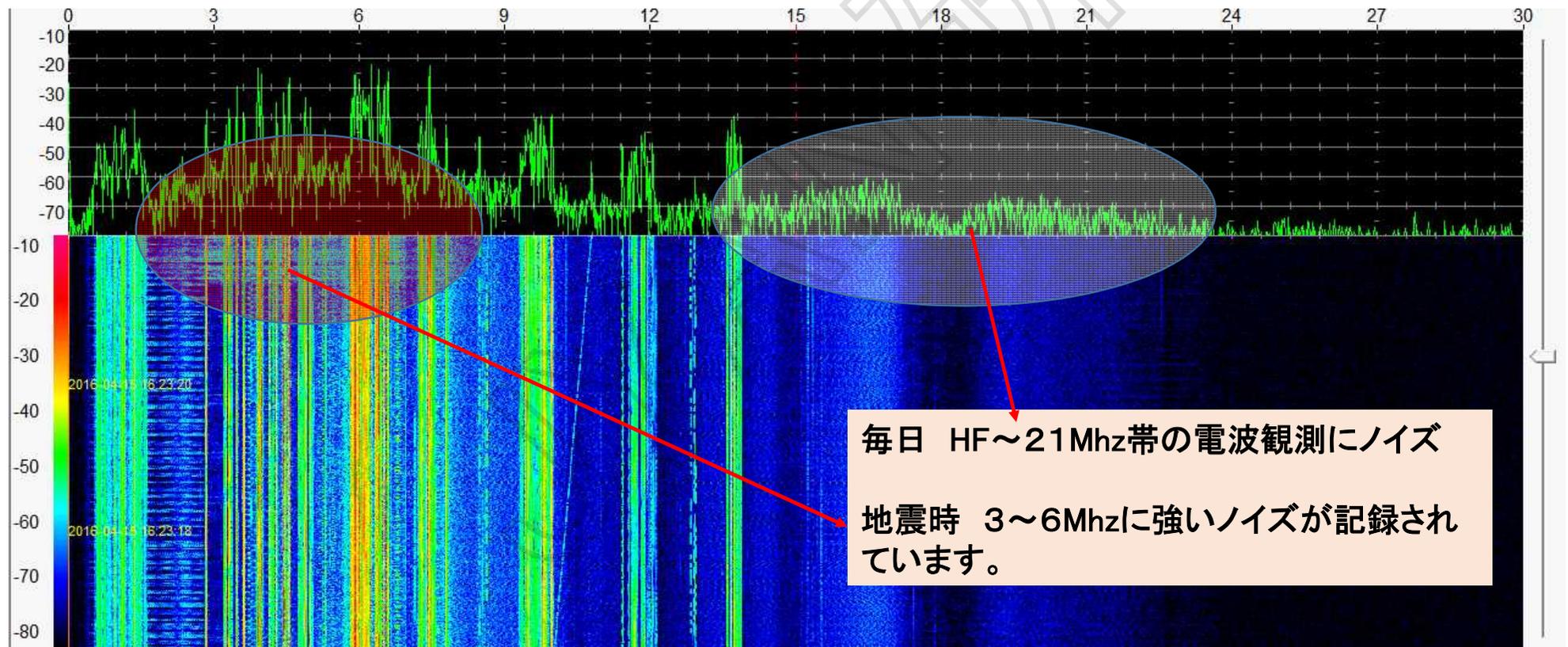


通常するとき



地震前は電波
の強さを現す
色の様子が
全然違うのです。

熊本地震本震記録4/16/01;25



理論解説

光と電磁波は同じ性質を持っています。

光は、蠟燭の向こうでは、揺れて見えますが

同じ事が電磁波でも電界の揺れが起きています。

曲折理論とメカニズム

震源の軋轢等で発生した、電磁エネルギーは、地表面に伝わると、貯まって電磁界層を形成したり空中へ放射されたりします。

この(電磁界層は)

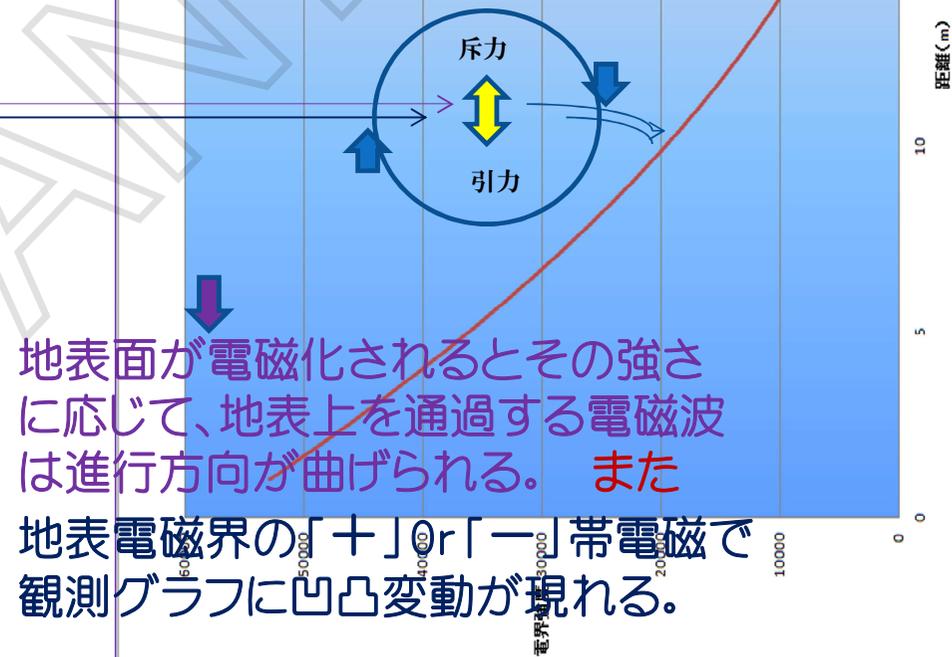
空気コンデンサー模様の界層で、地表では、電磁界の強度が最も強く現れますが、地上高が上がると(約距離の2乗に反比例して)極端に弱くなってしまいます。

これは(連続電磁誘導作用)

電気及び、磁氣的な引力や斥力等の作用によって、影響が最も強い地表では、通過中の電磁波も電磁界変化に応じ、屈折や曲折が起きて、電界強度が変化します。

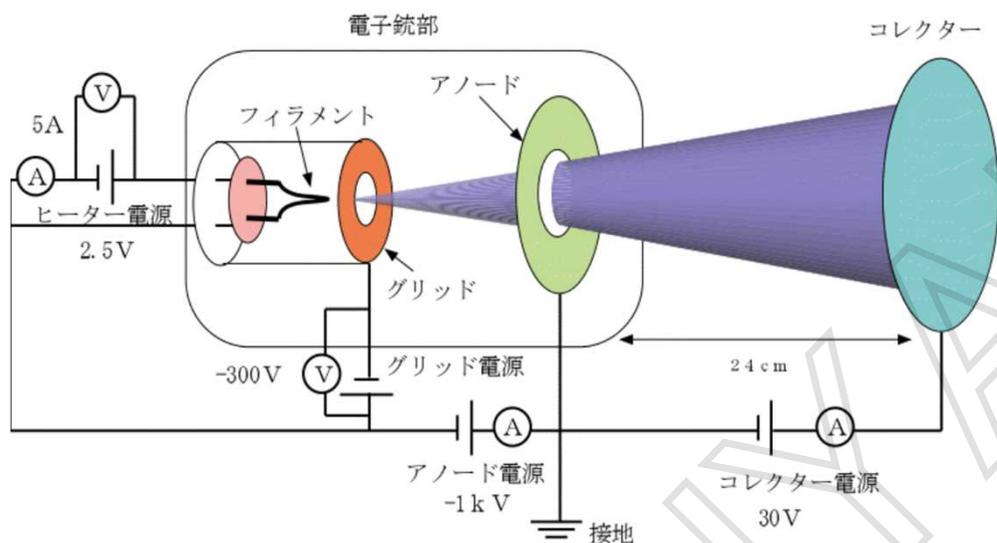
地上4m=4万が20m=2千で約1/20に落ちる

(電磁界強度の減少グラフ)
高さ、電磁界強度の変化



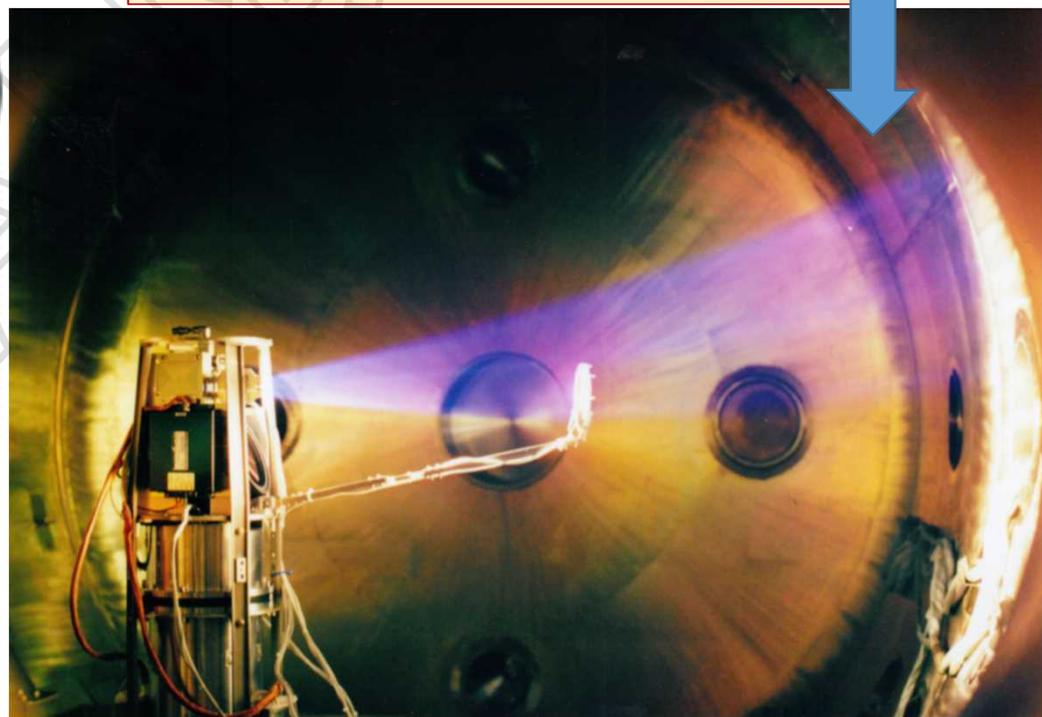
実例＝電波が曲がる？電界強度の変化

電子銃部の構造と回路

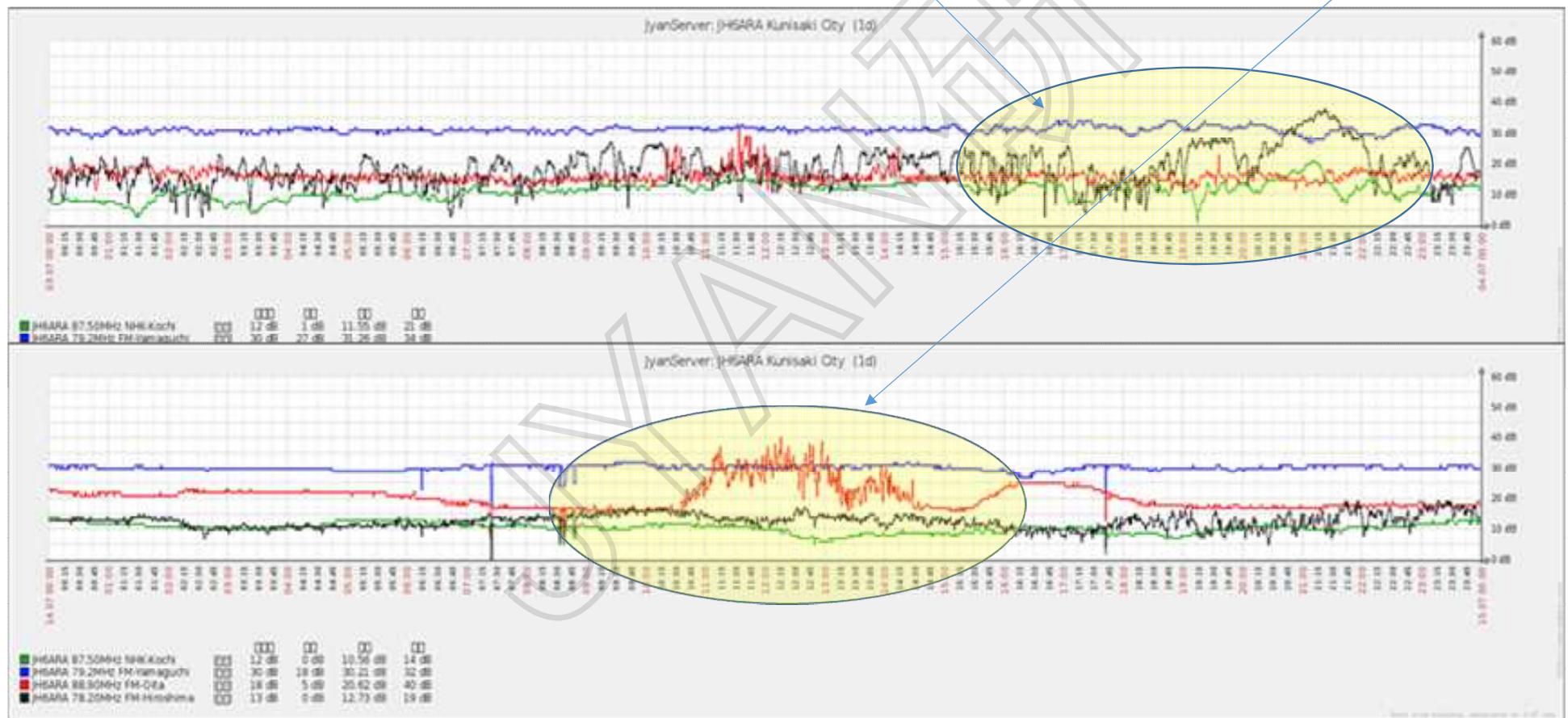


電子ビームが
曲がって進む

昔のテレビは
ブラウン管だった

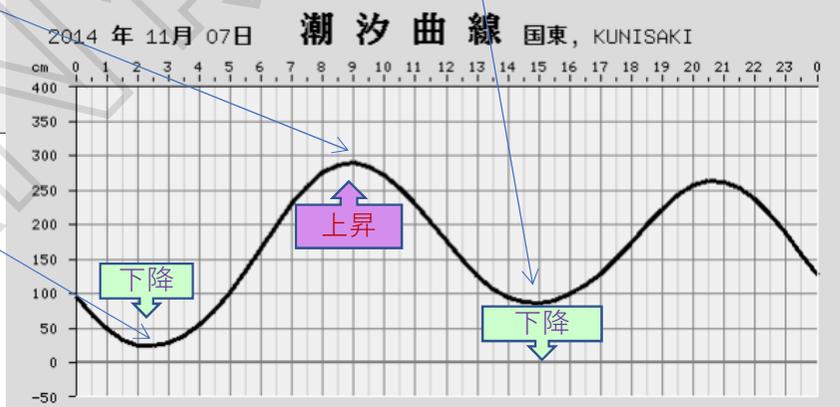
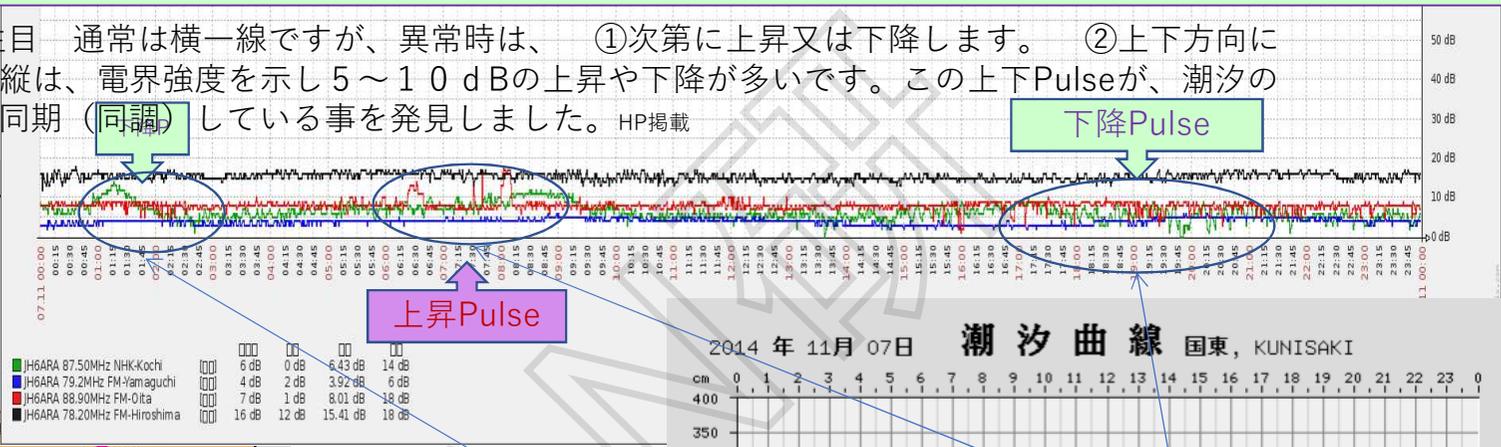


電界強度の変化現象 = 電波ミラージュとE-スポ

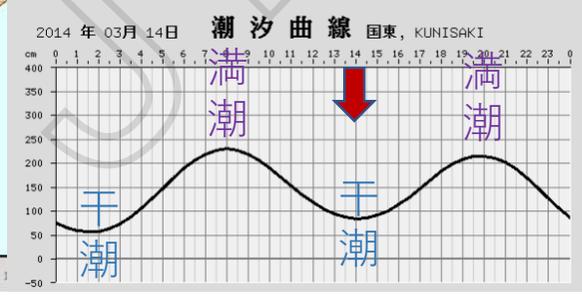


潮汐と電磁異常の照合結果(大発見を学会発表済！)

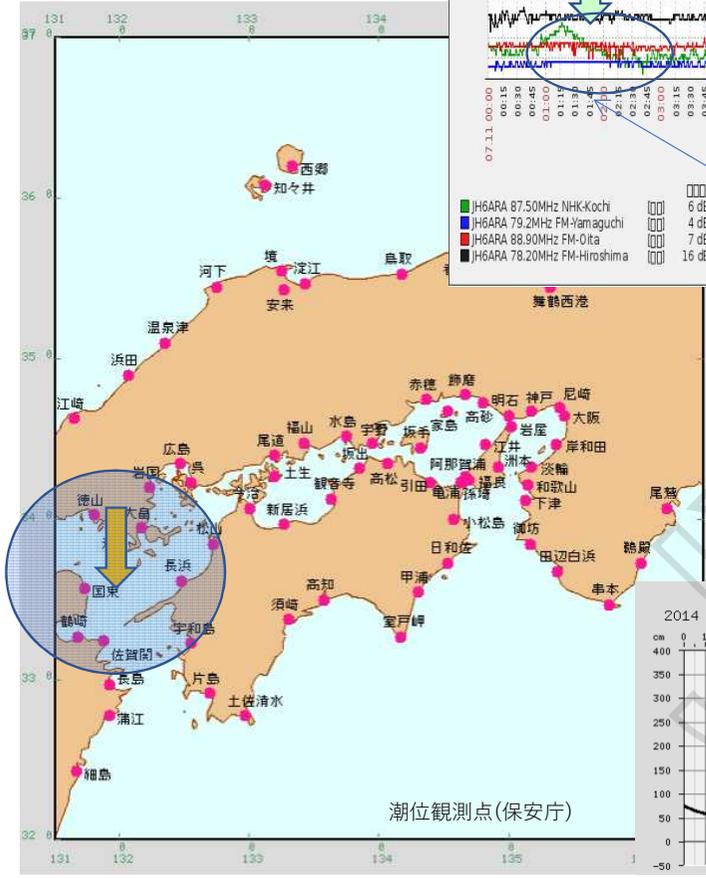
Graphの見方 **赤ライン**に注目 通常は横一線ですが、異常時は、①次第に上昇又は下降します。②上下方向にPulse的ラインが出ます。縦は、電界強度を示し5~10 dBの上昇や下降が多いです。この上下Pulseが、潮汐の満干潮と、上下の方向がほぼ同期(同調)している事を発見しました。HP掲載



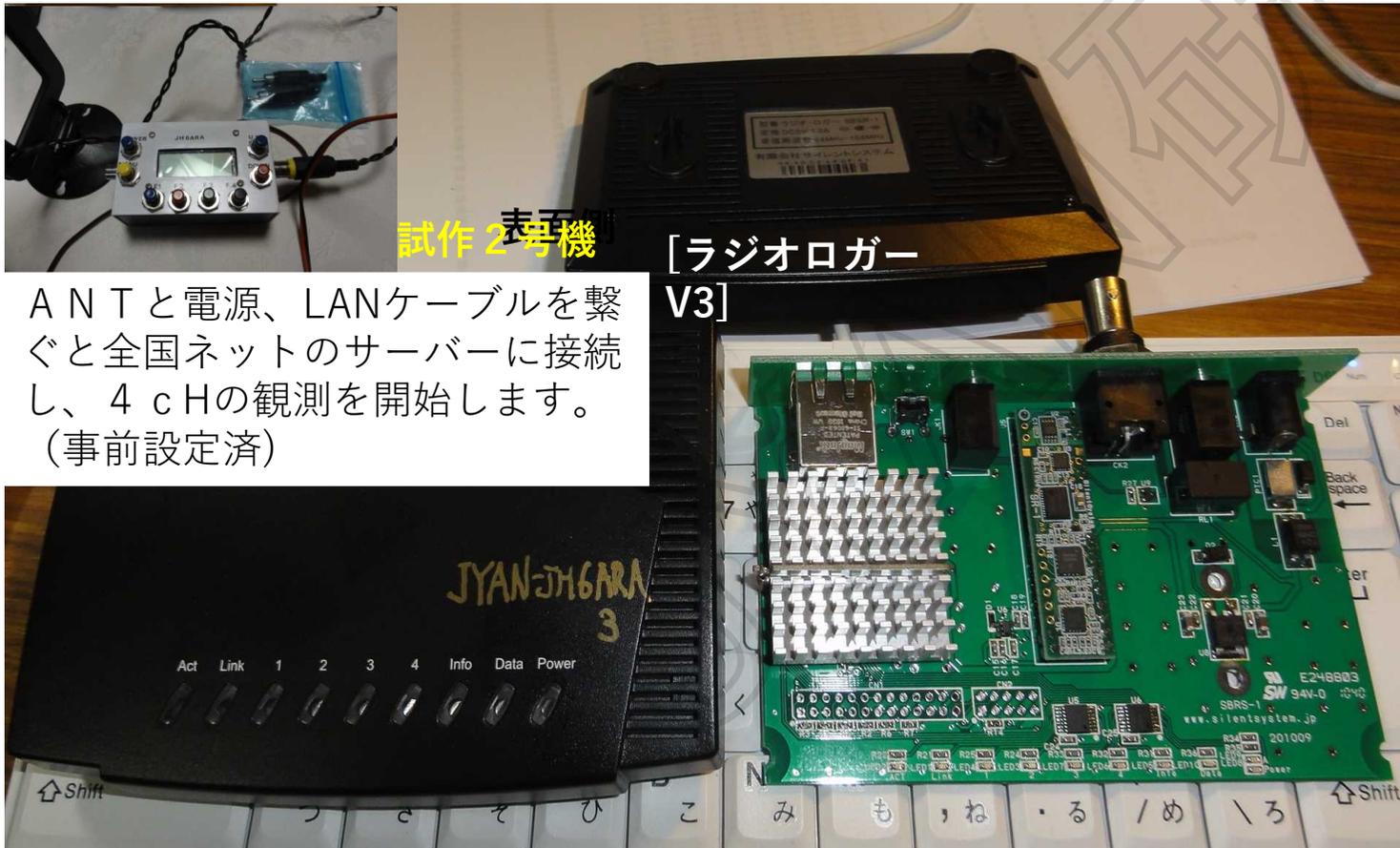
**潮汐同期
の発見**



6年前から観測と記録を続けていますが、この「Pulse」はノイズとして「見過ごして」いました。地震が続きようやく潮汐や地震と同調している事が判りました。



地震電磁観測 現用機RL



試作2号機

[ラジオロガー
V3]

A N Tと電源、LANケーブルを繋ぐと全国ネットのサーバーに接続し、4 c Hの観測を開始します。
(事前設定済)

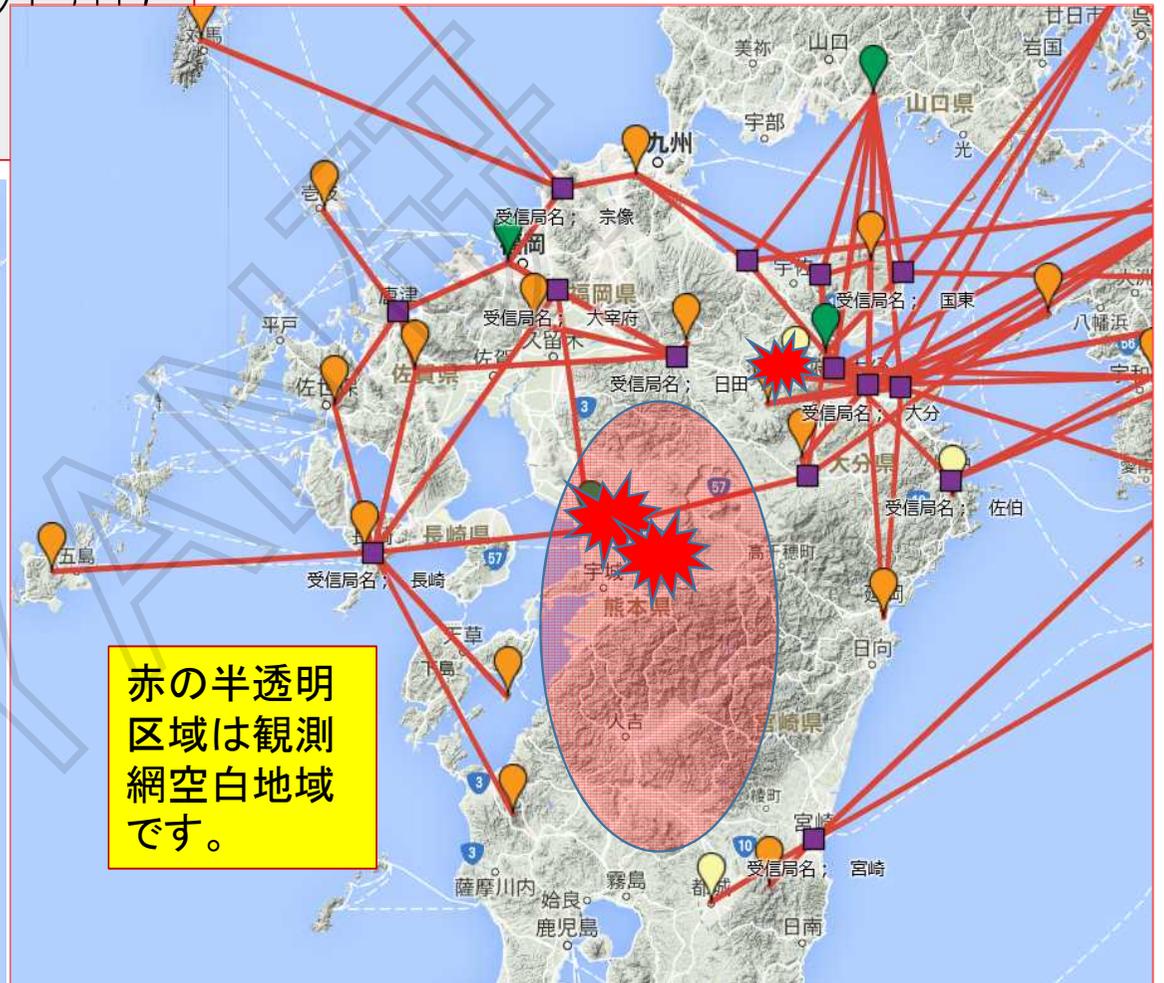
今回は

最先端の観測技術
に新発想のIT技術
地震観測専用の
◎電磁気地震計と
◎観測システムを
試作中です。

21年の地震研究
50年の無線技術
10年の学会研修
観測と記録10年

これらが融合して
世界最先端の
地震観測システム
ができるのです。

現観測局配置図(九州) 「熊本県のみ無し」



◎ HAM に地震予知を伝授

- AMラジオがノイズで聞きづらくなったら要注意（雷は別です）
- LF~HF帯で「バリッ」等のパルスノイズが次第に強くなれば要警戒
- HF帯でノイズがS7とかS9に強くなれば、地震が近い証拠です！
- V/UHF（50Mhz）で「パリパリノイズやガーガーノイズ」の断続が続き、次第に大きくなれば警戒を要する信号です。誰でもOK・・・
- Eスポが無いとき、の秋冬春時の異常伝搬は特に注意が必要です！
- ダクト通信（梅雨時）が、無い時期のエコー伝搬は特に注意！
- テレビ等々のリモコン、電波時計が変！は大地震が近づいています
- カーナビ装置がおかしい！は、変になった所あたりに大地震が近い。
- 雲、光、カラス、ネズミ、ミミズ、犬等々の異常も静電気や電磁気パルス等が原因です。自然現象を見落としてはいけません。

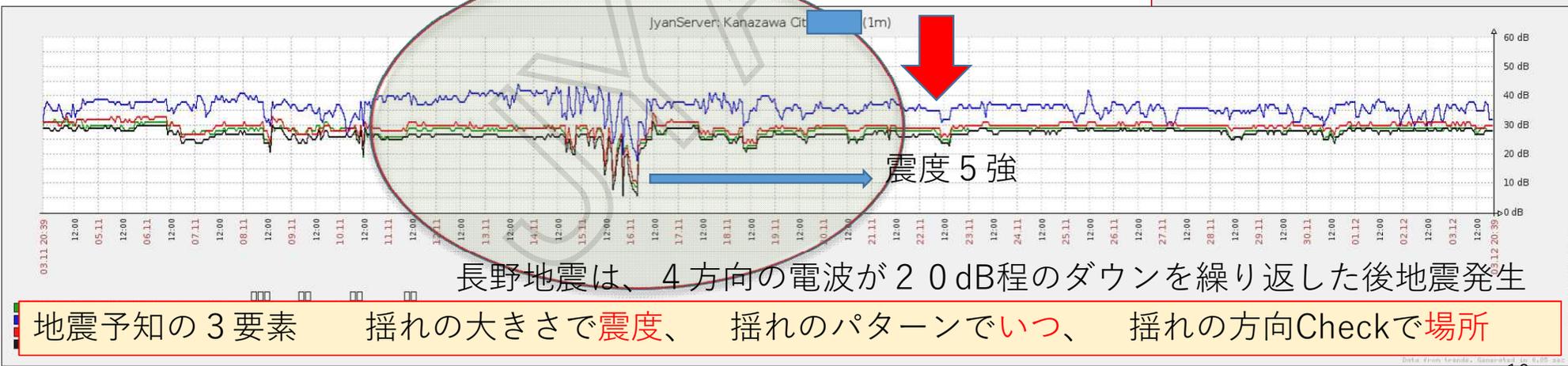
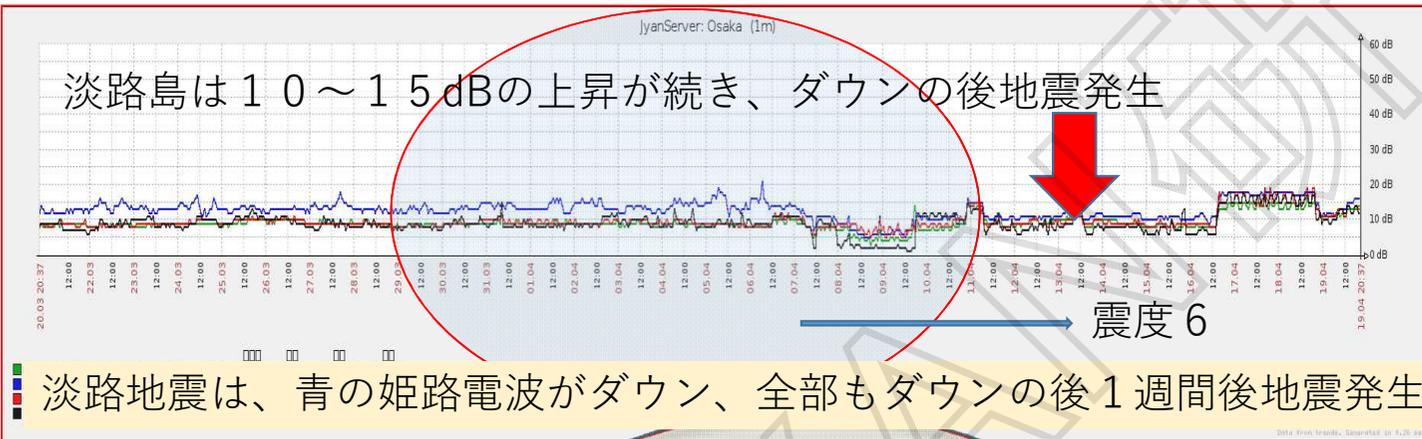


地震の観測例 (どちらも1週間後に地震発生他多数有)

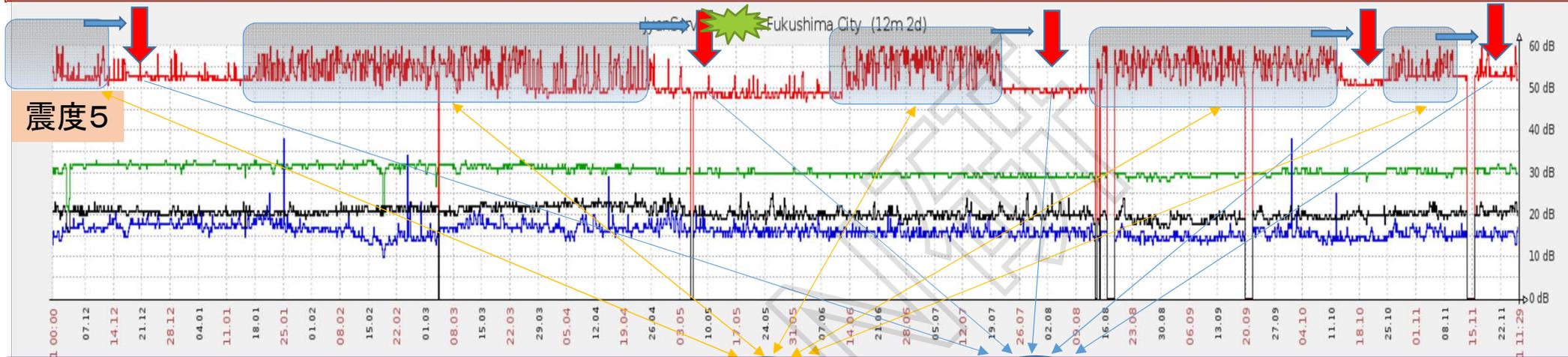
淡路島地震 と 長野地震

淡路島は
レベルアップ 当観測は
(逆断層型) = これって
(2013年4月) 凄い

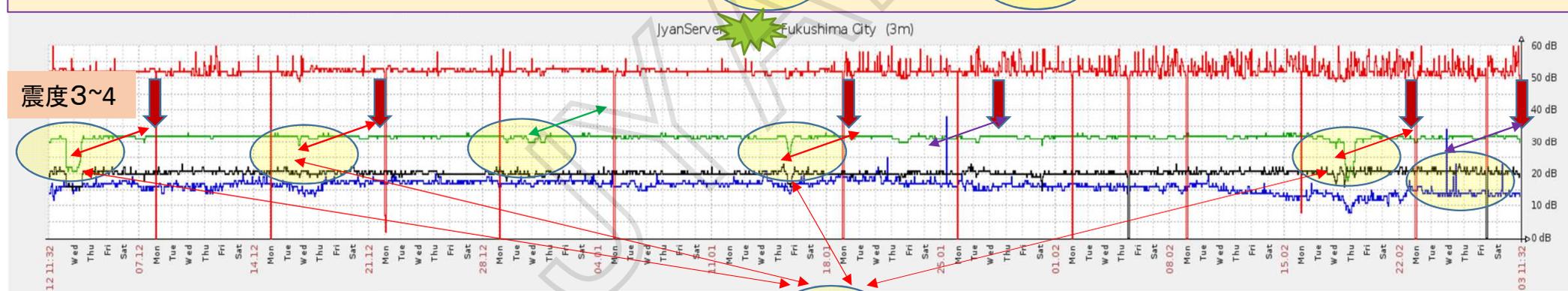
長野地震は
レベルダウン
(正断層型) = これも凄い
(2014年11月)



地震観測網の記録例 福島局の観測グラフ(平成27年の1年間分と 下は3ヶ月分です)



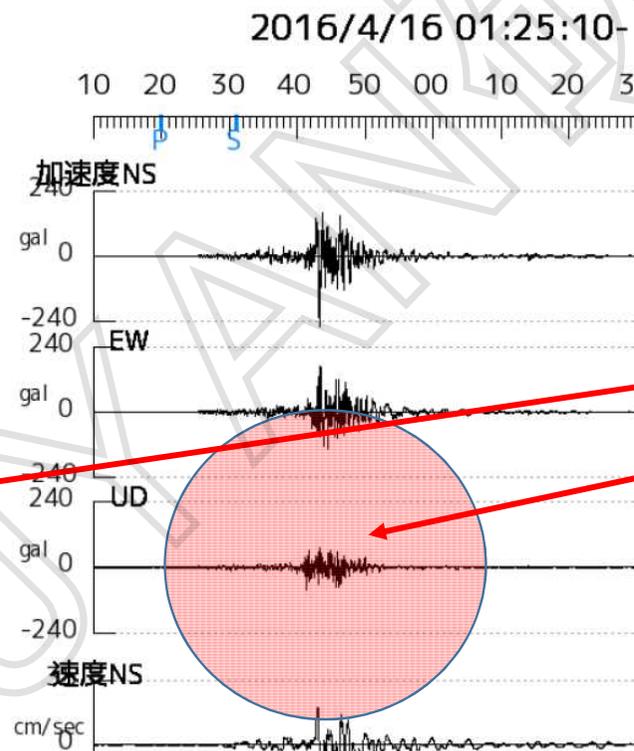
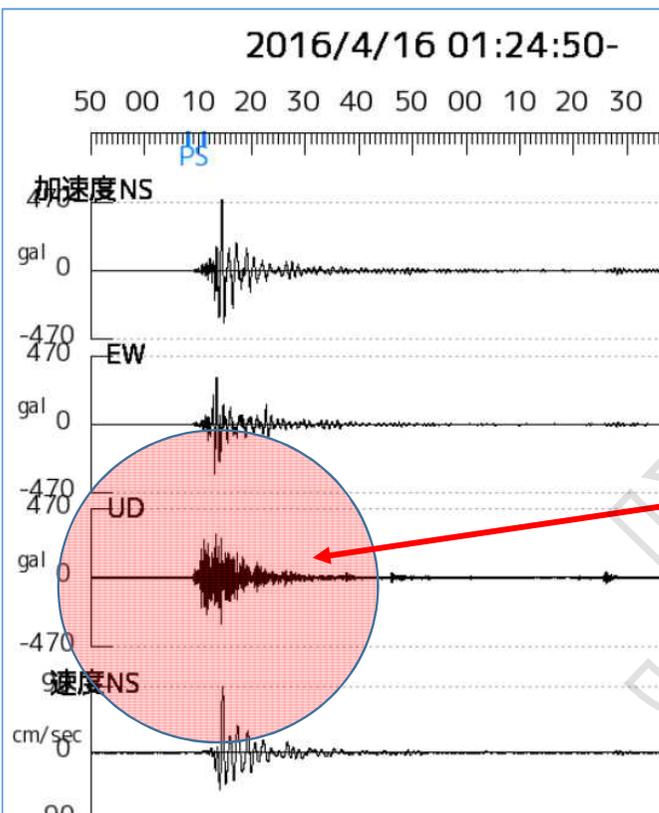
上図は福島局 1 年間グラフ 赤折線異常終了後に震度5の地震が発生しました。



- 福島局の3ヶ月間グラフ 黄緑線が、ダウンし約1週間後に地震が発生しました！
- この異常を自動的に処理すれば震度3~5で52%、震度5では100%の確率です。

FM 76.20MHz FM Poco Fukushima	30 dB	0 dB
FM 75.90MHz NHK-FM Aizu	13 dB	0 dB
FM 77.80MHz FM Fukushima	49 dB	0 dB
FM 77.10MHz FM Sendai	20 dB	0 dB

地震計データは「縦揺れ」が激しい！



熊本地震はこれで棟が破壊した強震&縦揺れ！

+ 地震回数
の多さ
赤丸部分が
上下動です3倍
震源と阿蘇では
こんなに違う！

震源の上空を通る電波に最も異常が現れる！



熊本県に観測局はありません。しかし、大分県竹田市局が完全に捕捉し、記録も明確でした。

震源の熊本地方と大分県竹田市局は、阿蘇山を介して距離約50Kmですが、熊本FM放送局の電波は丁度震源の上空を通過していたため、きれいに前兆異常を捕捉・記録したものです。

他の周辺局も送信所と震源と受信地点が観測エリア外で、明確な記録はありませんでした。

◎ ついにやりました！

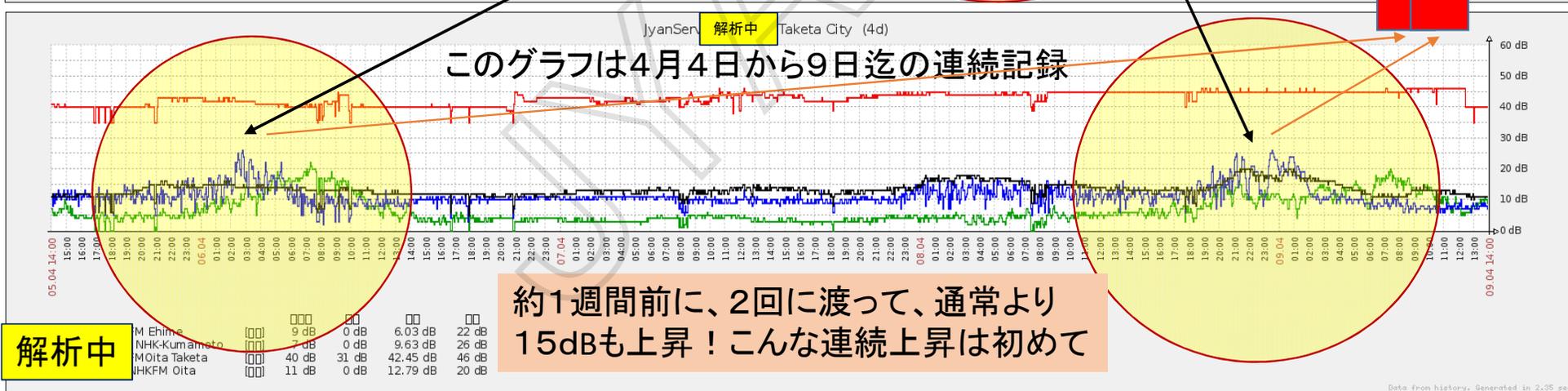
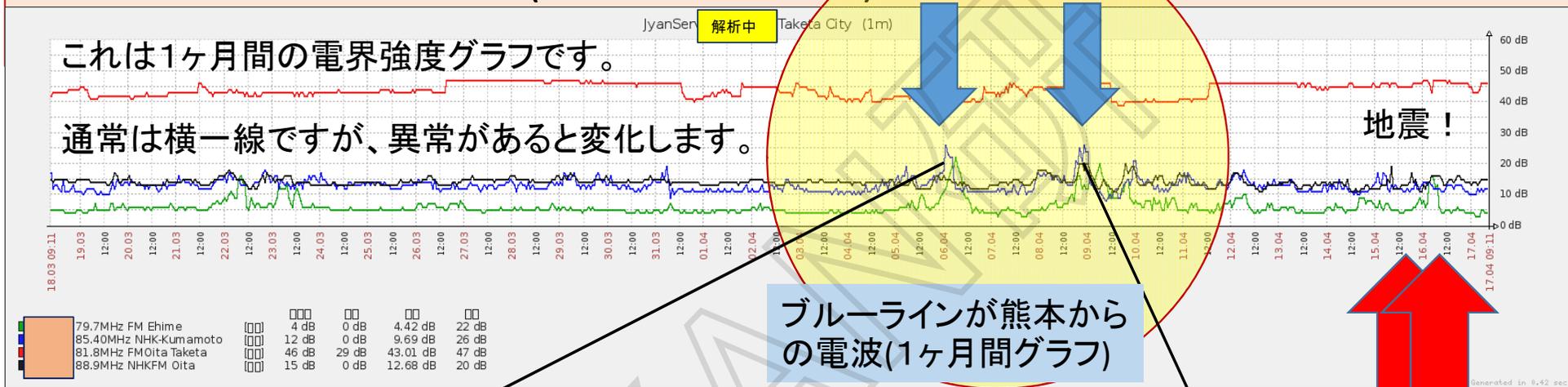
- 熊本地震は1週間前に明快な前兆現象を捕捉しました。
- 大地震が「2回続く」ことが予想ができたのは当研究会の電磁波観測網だけです。
- **観測は大成功でした！** (多くの成功例あり)

他に、熊本ー大分地震の前兆が記録できたという発表はありません。

気象庁は14日の地震直後、今後1週間は余震に注意と報道発表、私達は周知徹底の広報手段が無いため、急遽私は熊本に出向き2回目の地震へ注意を！促しました。気象庁は16日の地震後に苦しい訂正をしていました。

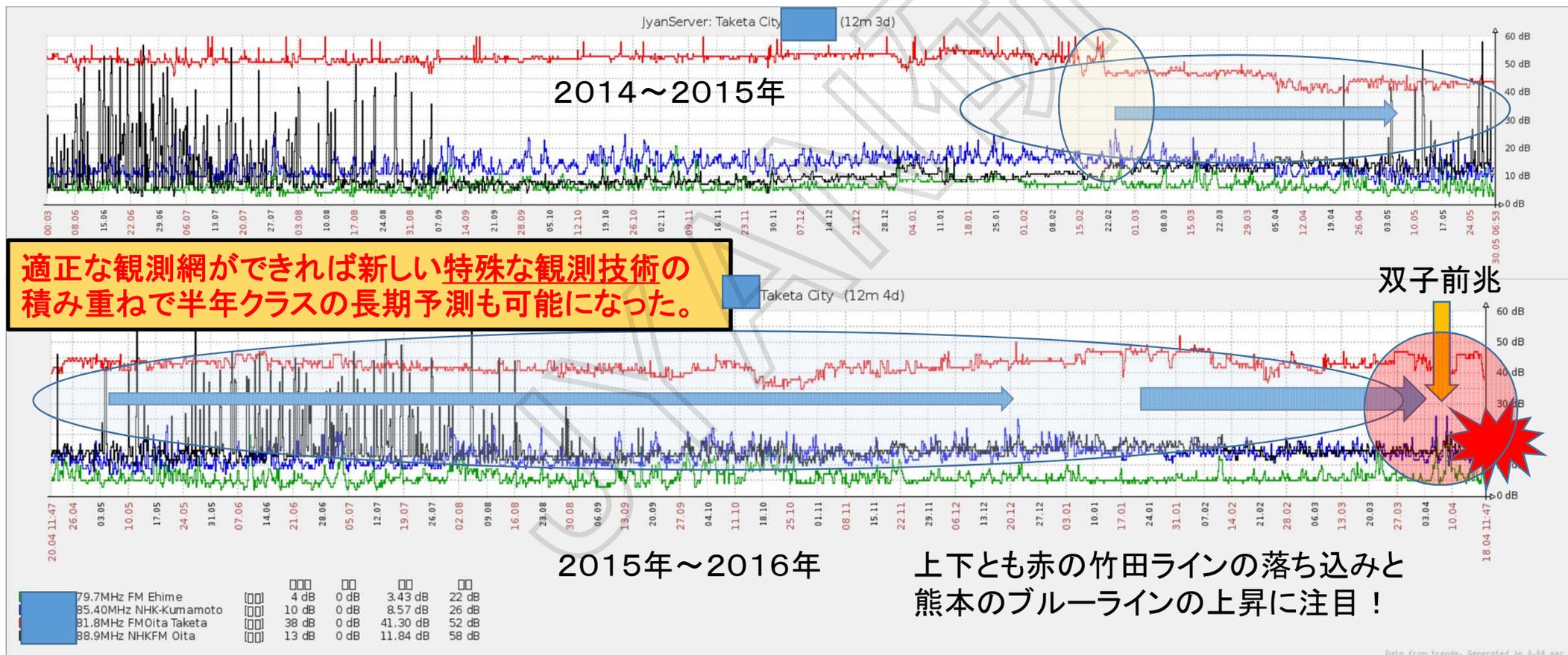
正しい予測ができたのは「私達JYAN研究会」の電磁観測だけでした。！

大分県竹田局(距離50Km)異常を完全捕捉！

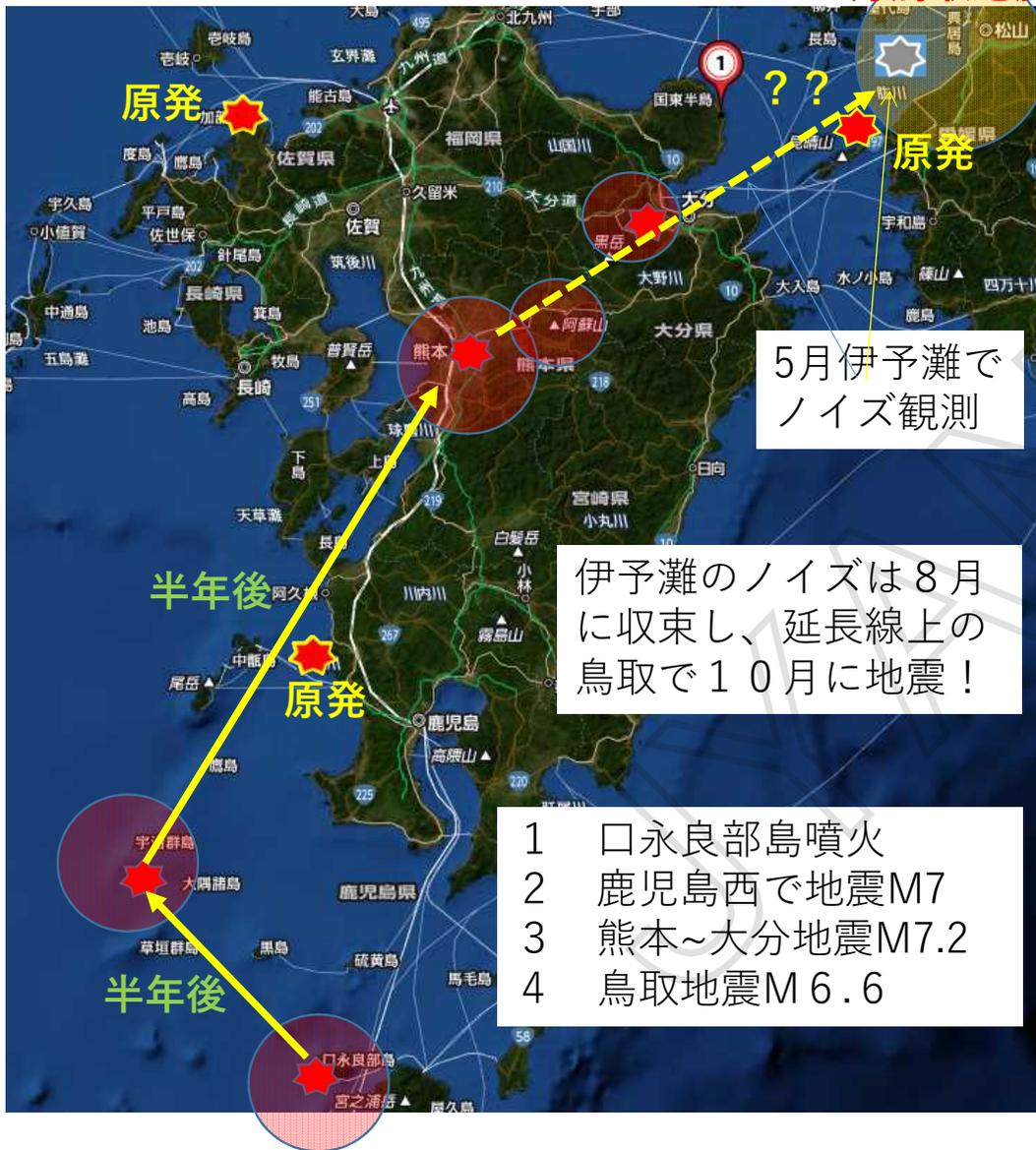


熊本地震の前兆は去年の2月25日から始まっていた。

前兆期間が長いほど、大きな地震となっているが、1年を越す前兆の場合は大震災となる場合が多い。しかも、今回は地震の1週間前に双子状の前兆異常があり、その通りに前震と本震が発生した。



10月鳥取地震



地震と火山は連動しています。
 喜界島、阿蘇山等がカルデラ陥没と言われています。(しかし別府湾や鹿児島湾、志布志湾も同様と考えています。)
 噴火があると空洞の穴埋めで、横ずれの地震が発生し、連動型の地震を励起します。

新発見の連続！熊本大地震

JYAN研の Quake News

- 前震・本震・余震の区別が不明でしたが、FM放送波の電磁観測網で、約**1週間前**から明確に予測できる事が確認できました。
- 次々に発生する余震は、全く予測困難でしたが、現地調査の結果、地上を電磁気観測（観測網を構築）することで、短期間（**数時間前**又は**数日前**）に、該当地域の地震発生危険度（警報等）を、予測して発表する事ができる事が確認できました。（**数時間前予測も初めて**）
- 最も困難だった「横ずれ断層の地震」で、始めて電磁気前兆がきれいに記録できました。（3種類の判別ができるのも当研観測のみ！）
- 観測方法は**3種類の電磁観測**で「**決定打**」となりました。

電離層の変化を観測× (電離層の反射波利用)

- 遠距離のFM放送波
- 超低周波帯の電波
- 観測局数は3~8局

電離層

約100k~350km上空

電離層 F2層 地上約300~350km

電離層 F1層 地上約200~250km

電離層 D・E層 地上約80km~100km

電離層は地表から遠過ぎて変化が出にくい

何故？予測精度が大きく違うのか？
地表で最も効率的に観測！が違う。

雲の層 3k~15km 雷層

地表電磁波 1.5m~10mで地上の影響が最も出やすい

地層

地表での多数観測◎ (震源~直接波利用)

- アースからの受信
 - 地表での間接受信
- 変化は分かり易いが
高度の技術が必要！

アース版

A 地下電磁気

震源
軋轢

押される=プラス圧電気
裂かれる=マイナス電気
ズれる=摩擦電気

大地震や大噴火は予知情報 が無いと助かりません。 ハムが頼り！

- 地震予知はできません！ 20年も（阪神や東日本・熊本も）できませんでした。だから、みんなで耐震対策をしましょう！と、言う、東大地震研のRG教授がいますが、実は、危険を判っていません。
- 大地震も困りますが、大噴火は周囲50Kmは火砕流や噴煙物で避難できなくなり多くが死亡しています。（喜界島では鹿児島が大被害）
もし、その時は早めに予知して「逃げる」しか、方法が無いのです。
地震予報は「絶対に必要」です。私達は完全予知に挑戦しています。
AmateurHAMが守る！ 日本地震学会、日本地震予知学会、JGU連合学会員 {JH6ARA}

新開発**3種類**の地震電磁観測技術は 「地震予測情報」を**完成域**に！

- FM観測網 いつ・どこで・大きさ等の概要が判るようになっていた。
 = **前震・本震・余震の日時的予測が可能**となった。
- 上空観測網 広域観測で海外を含めた概況の予測が可能である。
(電離層) = 電磁界の変化から**危険度の高い地方が判ります**。
- Earth観測網 観測実例が少なかった。(熊本地方で観測し判明した！)
 = **直前に時間単位で、危険予測が可能**となった。

どこにでも起きる。大地震！

「地震は来ない」と、昔から言われていた「所」
に大地震が、起きています。

だから、地震が起きない？保証はできません。

○熊本に観測点を作っておけば、少なくとも人的被害は激減した！と、悔やんでいます。

悔やまれてならない、熊本観測所（資金不足で観測器を送れず）早期に観測網を作っていたら、今度の地震被害は殆ど防げた！国や関係機関にアプローチしたが、費用を出してくれなかった。気象庁も本震を見抜けなかった。しかし、私達には予想ができた！（永年にわたる）何処にも無い確かな「観測データ」があったんです。メディアと協調すれば、完全に予報できたはず！ 申し訳ない。

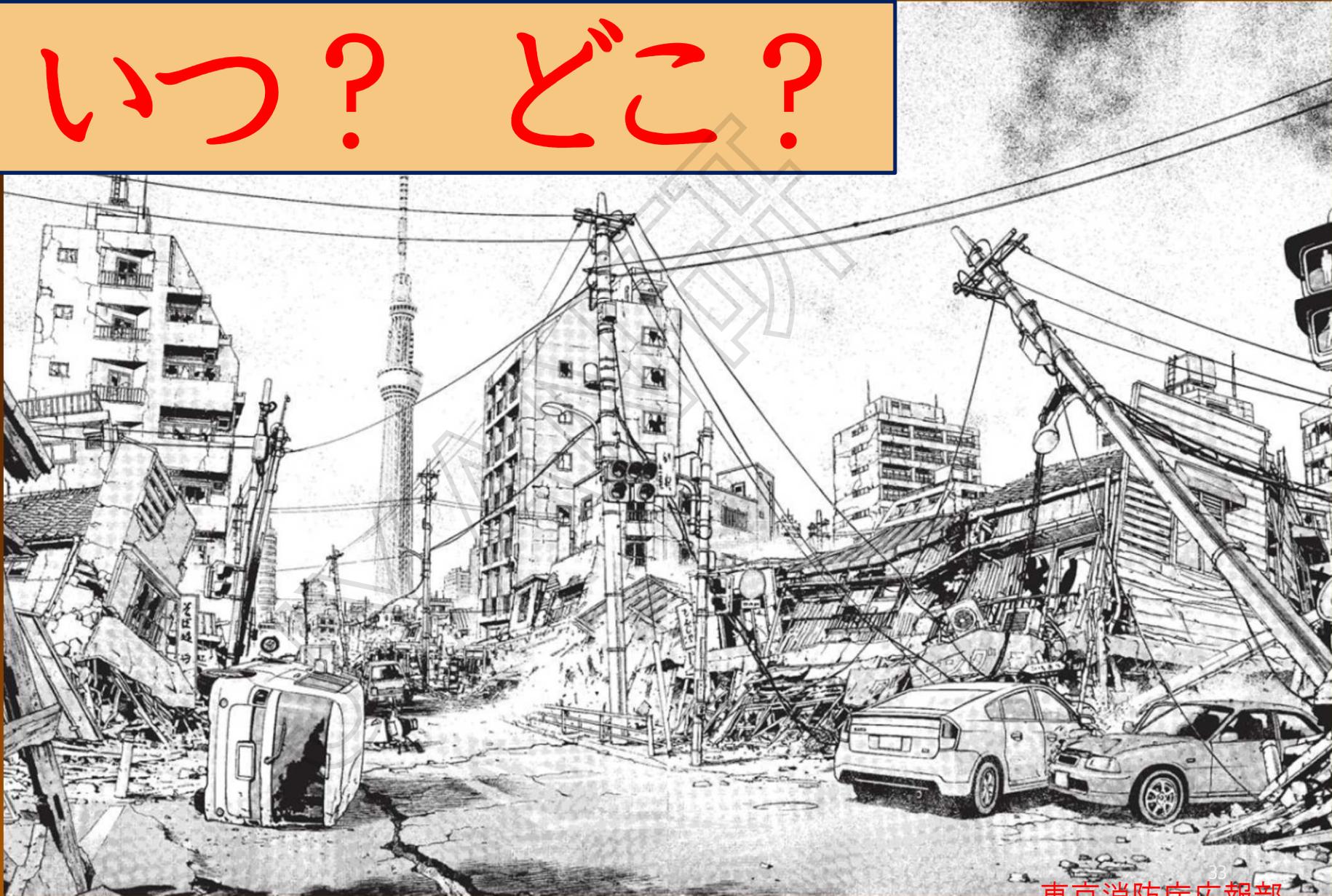
今度はいつ? どこ?

命を守れるのは

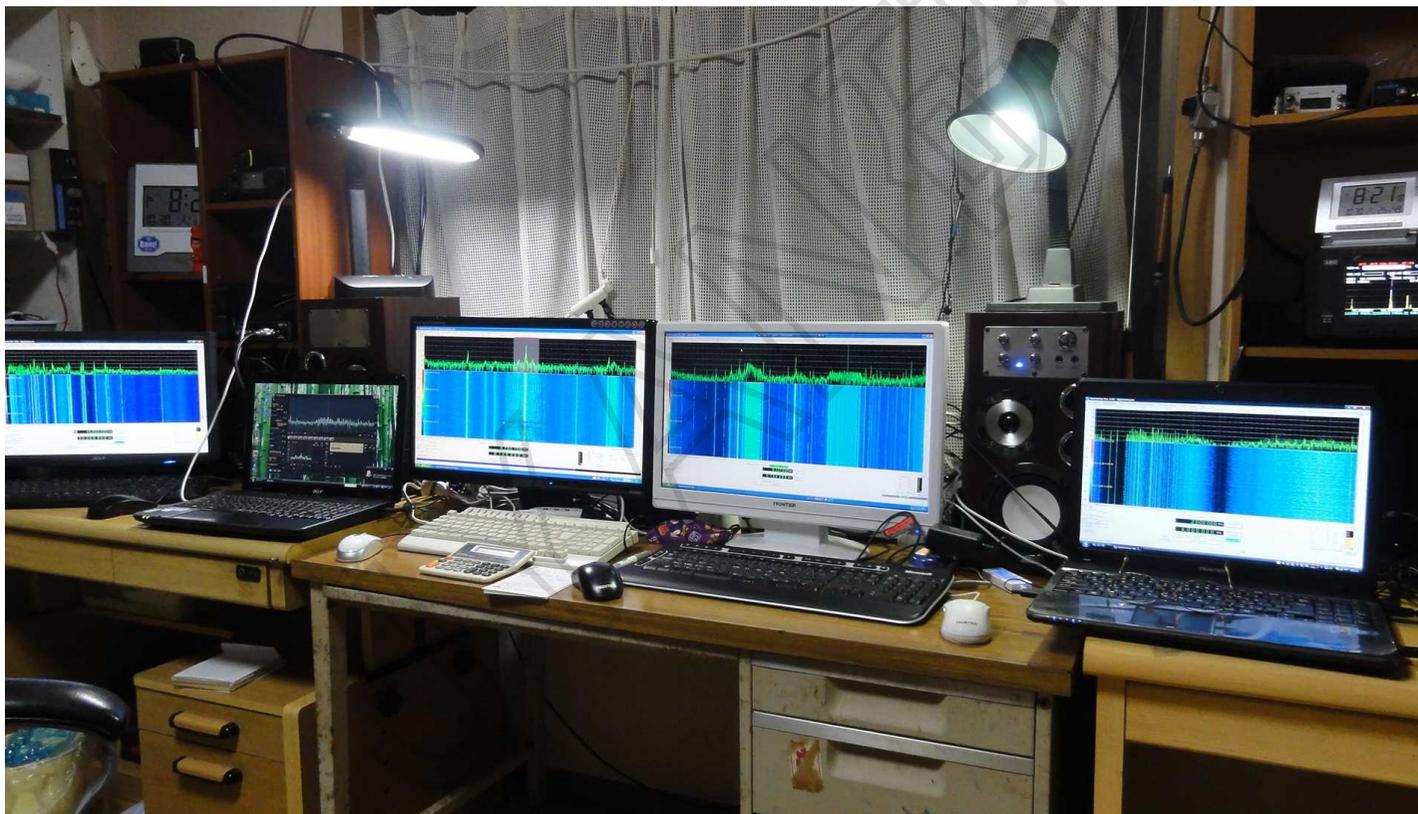
あなたの

準備
次第

なのです。



**「研究」とは別に、毎日の観測データ
解析作業は、終わるまで・・・です・・・**



FM帯、L&HF帯、アース帯は、観測と記録パソコンが24時間稼働中です。

地震予知 = 電磁波観測 (= ノイズ探し)

理論の裏付け 物が動けば電磁気が発生します。
この電磁気を観測するのです！

- 電磁気が発生は～ 震源の軋轢が起きた証拠
- 電磁気の変化は～ 震源の様子に変化が発生

- 自然の電磁現象から逆に辿ると、地震の元となる震源地の様子が判ります。
- 電磁気データと自然データを比較解析したら実際の現象に行き着きました。
- 地震と、海洋潮汐や地球潮汐等の相関関係を発見し、学会で発表しました。
- 結局、地震の自然現象は電磁気理論と地震のメカニズム理論とも基本的に整合していました。

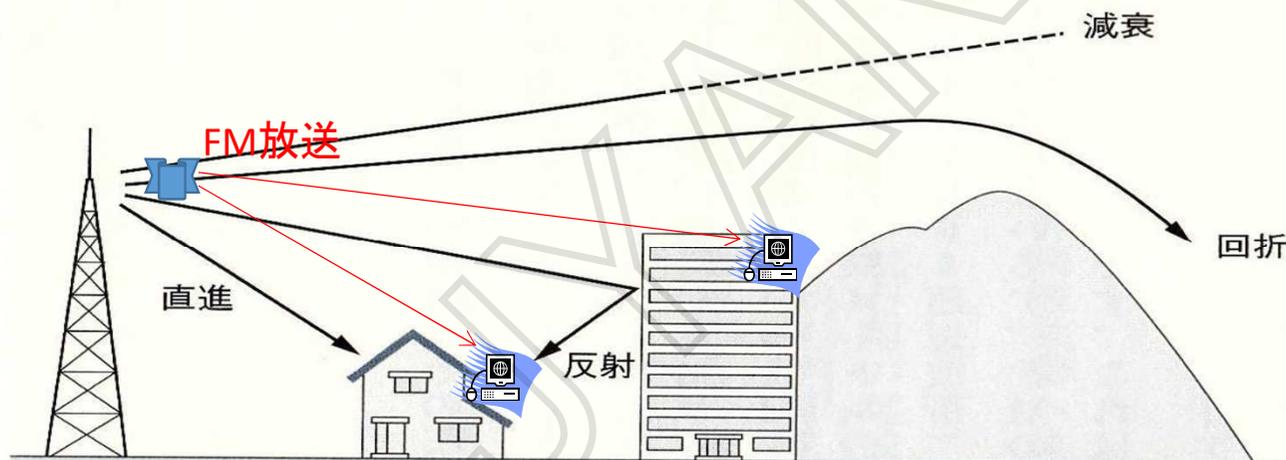
地震電磁気観測網が完成すれば

- ① どこで、地震が発生するか？
 - 「**県や地方単位**」 東北や関東等で判る。
- ② いつ、地震が発生するか？
 - **1週、数日、時間前に注意・警報発表**
- ③ どれくらい？ 震度は+-0.5

電磁波の観測は各種ありますが、当観測網では地表を伝わるFM放送電波等やアースから直接受信して、**揺らぎ現象等を観測**しています。

- FM波の観測では、直接波を受信するため数m～数十m高の見通しアンテナで受信し、電波Dataを収集しています。なお、直接波観測は、電界強度の「±」両方向の観測が
- 大事で予測には貴重なデータとなります。

図2-4 電波の性質



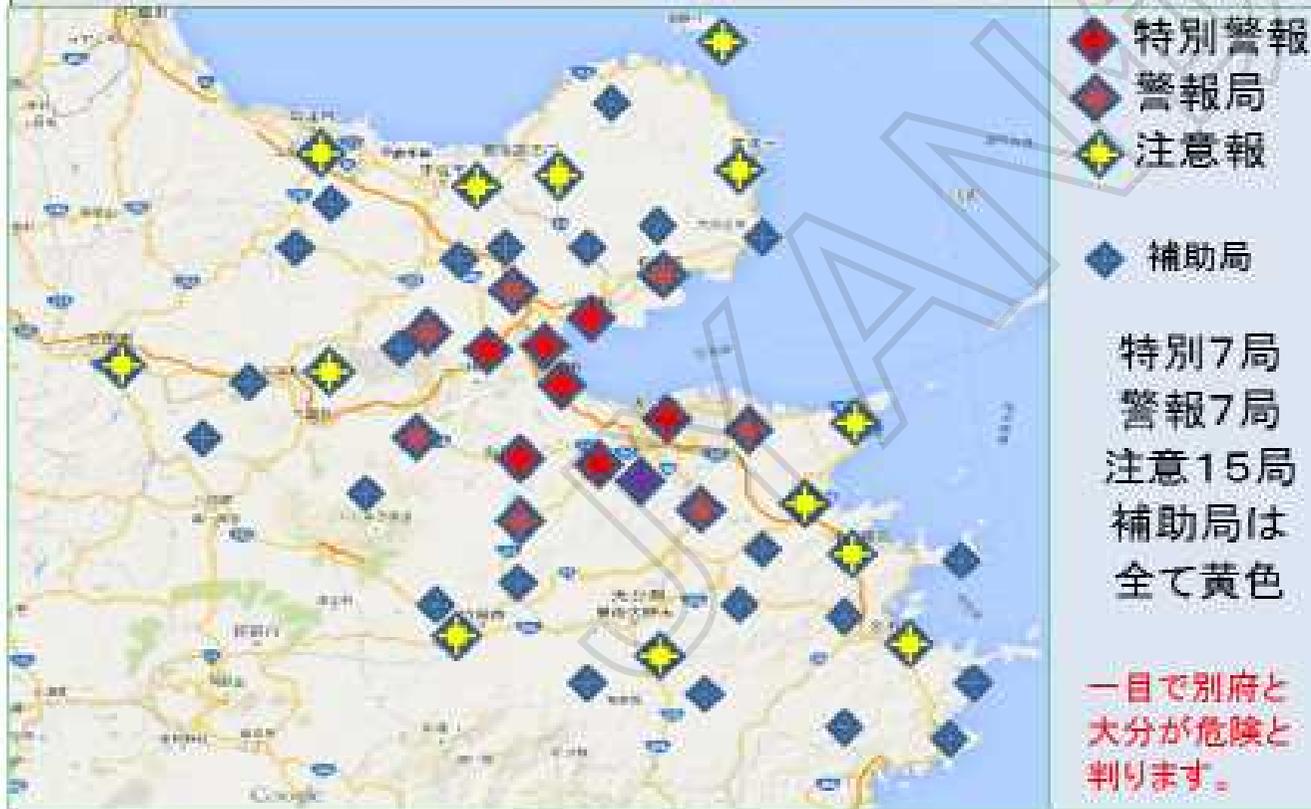
遠くになると、100km程度のフレネルゾーン迄の地表波を観測していますが、電離層の変化を利用した観測は、地上80Km～300Kmの上空になり、観測範囲が広がって3要素が絞りにくいので、当観測エリアは横50Kmを基準としています。

FM受信用
ダイバシティ
アンテナの例



大分県内50カ所の**観測網完成予想図**(最終段階)で、観測局の**黄色**が多くなると**要注意**で、**赤色**局が**集中**するとその真下が**震源**となります。また、異常レベルと範囲で「**大きさ**」、異常のパターンで「**いつ**」が判るのです。

「地震観測互惠ネット」での観測予想図(高崎山付近)
(赤)が特別警報局(橙)が警報局(黄)が注意局



気象庁の地震観測は全国600カ所の観測点からのデータを集めています。

他に地震観測機関等も含め全国で3,900カ所に地震観測点があります。それでも

地震警報は、直下型の地震は、揺れの後には届きません。事前情報が無いと予防はできません。私達の観測網は、電磁気観測でインターネット構造です。各県単位では50局の観測点を置き、全国での観測局設置を目指しています。

全国の観測網 (第1期の計画)

地震電磁観測網 200局

地方単位での情報配信可



沖縄諸島

北海道地方(支庁他)
東北、信越地方
関東、北陸地方
東海、中部地方
近畿、中国地方
四国、九州地方
沖縄、島嶼地方単位

小笠原諸島

- 県庁と観測点
- 増加観測点

(各県に4~5局配置
図では170局です。)

発足時計画は200局
二~三次計画600局
設置予定数1,200局
気象庁の観測と他局数(地
震計は3900局)